

「これはもう、^{げいじゆつ}芸術です！」

研一は興奮して声^{うら}が裏返^{がえ}ってしまっている。じいちゃんは笑^{わら}って
「おや、ありがとう。じゃあ、^{げいじゆつ}芸術を鑑賞^{かんしょう}しながらコーヒータイムとしようか」

そう言って、ドリップコーヒーをいれてくれた。ポコポコと音がして、コーヒーのいい香り^{かほ}の液^{えき}が落ちてくる。



ん？
「コーヒーの液^{えき}の上に、落ちてくるコーヒーが玉^{たま}になってのっかっている！」

「水面の上でも、こんなふう^{えき}に水の玉^{たま}が転^{まわ}っていくことがあるのだけれど、見たことあるかい？」

「え？ 水と水がふれていても、いっしょにならないの？」

「スポイトを使って、水面を転^{まわ}る水玉^{たま}を作ることだってできるんだ」
麻実^{まみ}がさけぶ。

「作^{つく}ってみたあい！」

「それにね、転^{まわ}がっていた水玉^{たま}が水面にすっと引きこまれるときに、ぽちんって新しい水玉^{たま}ができるみたいなんだ」

今度は三人でさげんだ。
「写真^{しゆん}でその瞬間^{かん}を撮^とることって、できませんか！？」

▲コーヒーサーバーの液^{えき}めんに、液^{えき}面上^{えきめんじょう}のコーヒー液^{えき}の玉^{たま}。



▲このときには1センチもの玉^{たま}ができた。

▼スポイトでできた水玉^{たま}が水面で転^{まわ}る。



じいちゃんに撮^とってもらったハイスピードカメラの写真を、みんなで見ると、おどろいたことに、ピペットから落ちてきた水玉^{たま}は、水面の上^{うへ}にいてしばらくそのままだ。それから水の中に引きこまれるように水玉^{たま}の形^{かたち}がくずれると、一番上^{いちばんうへ}のところ^{ところ}が取りのこされて、前^{まえ}より小さな水玉^{たま}が新しくできて、水の上^{うへ}でぴよんとはねるんだ！

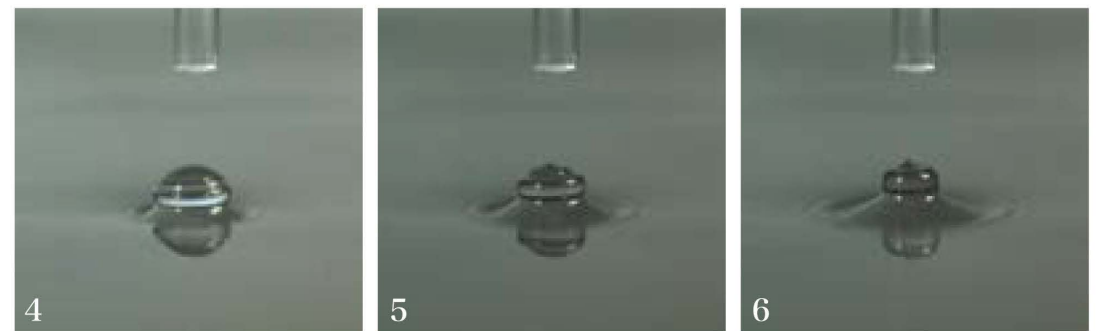
「この最初^{さいしょ}に水面にうかんでいる水玉^{たま}を一代目^{いちだいめ}、次にできるもっと小さい水玉^{たま}を二代目^{にだいめ}と呼^よぶと、このときは七代目^{しちだいめ}までできたんだ」



▲ピペットで水面の上^{うへ}から水滴^{すいてき}を落とす。下^うは水^{みづ}に映^{うつ}っている影^{かげ}。

▲一代目^{いちだいめ}は水面に0.3秒ほどういている。

▲とつぜん、水玉^{たま}の底^{そこ}が黒^{くろ}っぽくなる。



真ん中^{まんなか}をのこして水中^{みづなか}に引きこまれていく。



▲のこった部分^{ぶぶん}が二代目^{にだいめ}になる。